



2月15日
涅槃会 (ねはんえ)
お釈迦様 入滅の日



お釈迦様がお亡くなりになられたご命日、涅槃会は三仏会のひとつです。

「三仏会」とは、お釈迦様がお生まれになった日(4月8日)
お釈迦様がお悟りになり、仏教が生まれた日(12月8日)
お釈迦様がお亡くなりになられた日(2月15日)

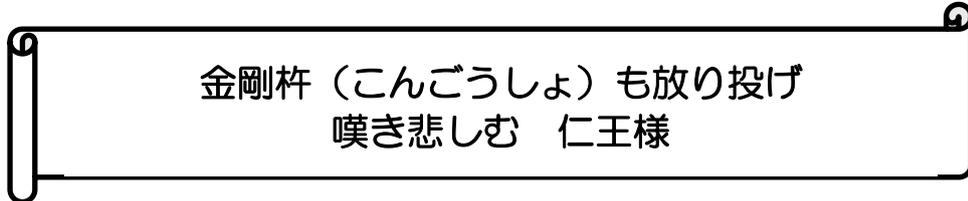
これらの日は、仏様の教えを旨とする者にとって とても大切な日なので、
総称して「三仏会(さんぶつえ)」といい、心を込めて手を合わせます。

この日、あちこちのお寺では「涅槃図(ねはんず)」
という掛け軸を本堂にお飾りします。



この掛け軸には、沙羅双樹の間に横たわったお釈迦様を囲み、大勢の弟子や
天の神々、国王や動物たちが嘆き悲しんでいる場面が描かれています。
お釈迦様や弟子たちの物語が凝縮されている、とも言われる「涅槃図」。
いったいどんな物語が描かれているのでしょうか。

やさしい涅槃図絵解き



涅槃図を見てみると、ひときわ目を引くのが
大きくて赤鬼のような風貌の方。

嘆き悲しみ、取り乱しておられますが、
普段はお寺を仏敵から守って下さる仏教の守護神、仁王様です。



仁王様といえば、筋肉隆々としていて恐ろしいお顔で口を開いて
いる阿形(あぎょう)と、口を閉じている吽形(うんぎょう)の
お二人。実は、この方々が手に持っている金剛杵は、誰でも扱え
るような代物ではありません。

なんと、あの阿修羅(あしゅら)を指2本で投げ飛ばすことが
できる帝釈天(たいしゃくてん)も、神通力では並ぶものなし
といわれる目連尊者(もくれんそんじゃ)も、金剛杵を持つこ
とはおろか、動かすこともできないといわれています。

金剛杵は、大菩薩の功德が成就して初めて持つことができる
ものとして、お釈迦様が特別に仁王様に持たせた杵なのです。



仏教の守護神として選抜された いかめしい仁王様も、
涅槃の頃には、大切な金剛杵も放り投げるほど嘆き悲しむお姿となります。
もしも涅槃図を見られたら、そんな仁王様を探してみてください。

大智寺だより

平成25年 如月
Vol. 36

発行所
大智寺

岐阜市山県北野
668-1
電話: 058-229-1532

<Mail>

hybsr245@ybb.ne.jp

<ホームページ>

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地
の水小屋にてご自由にお取り
いただけます。
又、当寺ホームページにて
過去の紙面をご覧いた
だけます。ご活用ください。

1月号発行部数
300部

ご愛読
ありがとうございます

お正月三ヶ日 修正会のお参り

新年明けて、1月1日から3日までお寺では毎年修正会（しゆしゅうえ）を行っています。新しい年の初めに、お檀家様をはじめお寺にご縁のある方々と一緒に、仏様にお経をお唱えできることは、本当にうれしいことです。

このお正月三ヶ日は、般若心経を三巻お唱えした後、大般若経六百巻の転読を行います。その後、大悲呪（だいひしゆ）、世尊偈（せそんげ）、そして消災呪（しょうさいしゆ）を三回お唱えします。「新年も正しい道を歩み、仏様の教えを守って生活していきます。どうぞ、お守りください」とご先祖様にお伝えするお経の供養でもあり、お正月のお参りでは、皆さんとても大きな声でお経をお唱えしてくださいます。大勢で心をひとつにしてお経をお唱えできるのは、本当に気持ちがいいものです。

おじいさんやおばあさんに連れられて、お若いお孫さんも一緒に参りされる姿は、さすががしく、微笑ましい光景です。祈る姿は、自分の親や祖父母の姿を見て、まねるところから始まります。



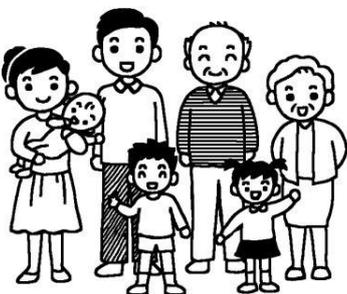
ご希望の方に 大般若札を差し上げます

大般若札（だいはんにゃふだ）は、大智寺にて新年のご祈禱をさせていただいたお札です。邪気を払い、家庭を守る働きから、玄関の外側の上の方にお祀りいただくのが一般的です。

禅寺では、大般若経六百巻の転読ならびに、住職による大般若経578巻理趣文の読経が、最も効力のある丁寧なご祈禱とされています。

このご祈禱は、約130年前頃より奈良の寺院で行われ始めました。以来、全国各地で国土平安、五穀豊穰、家内安全、除災招福を祈る法要として今日に伝わっています。

お檀家様方にはすでにお配りいたしておりますが、檀家でない方にも、差し上げます。ご希望の方は、ご祈禱料ご持参の上、お寺までお声かけください。



大智寺大般若札
祈禱料 三千円 也

大智寺のホームページにて 「般若心経」について住職の連載法話が始まります



日ごろから慣れ親しんでいる「般若心経」でも、いったいどんなことが説かれているのでしょうか。

いろいろと「般若心経」についての解説本は出ていますが今回は改まった堅苦しいものではなく、わかりやすいお話が展開されるものと思います。

普段の住職の人柄もにじみ出る、あたたかい連載法話。

たのしみ たのしみ♪

ホームページのタイトル名は「お経の話」です。（毎月更新の予定です）





～ まめ知識 インタビューしてみました ～

第六回：お仏壇屋さんの「ロウソク立て」エピソード

ご自宅のお仏壇に手を合わす毎日に、
ちょっとお役に立てればありがたい、そんなお話。



亡き方が迷わないよう、歩むべき道を照らすと言われるロウソク。
電気の光に慣れた今日でも、ロウソクの灯火はなぜかホッとさせてくれます。

そんなロウソクですが、だんだん使っていくうちに
ロウソク立ての芯の部分や、ロウの受け皿部分に、ロウが溜まって固くなります。
そうすると、ロウソクを立てても不安定で、火事の原因にもなり危険です
たいてい、ロウソク立ては、真鍮（しんちゅう）に漆をこすり、焼きつけて黒色にしています。
その上につや出しと表面保護のため、パラフィン系の薬を施してあります。

なので、お手入れの際に熱を加えたり、中性洗剤を使うと表面の薬がとれてしまいます。
お湯で絞ったタオルで少しロウを温め、爪楊枝など木製のもので削ると、傷つきません。
薬を使う場合は、つや出しワックスであれば表面の薬と同じ働きをするので良いでしょう。

《 大野仏壇総本店 》

今月のひまわり

先月15日の大般若会では、総代役員様をはじめ
台所のお手伝いの方々にお世話になり、無事新年の
ご祈祷を執り行うことができました。皆様には平日
にも関わらずお参りいただき、ありがとうございました。
後日「おうどん、おいしかったよ」と嬉しい
お声も頂き、台所のお手伝いの方々あっての大般若
会なのだな、と改めて感じました。

確かに寒い日の温かいおうどんは格別なのです
が、台所はてんやわんや。どうしておうどん？と
思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

実は、おうどんは和尚様方にとって思い出深いご
馳走です。禅寺の和尚様は若い頃に修行道場へ何年
か入ります。その厳しい修行道場でのご馳走がおう
どんなのです。修行道場には暖房はありません。坐
禅を組む禅堂は窓が開けっぱなしです。そんな中、
唯一冷えた身体を温めてくれるのが、おうどんです。
だから、禅寺の和尚様方にとっておうどんは、単に
おいしいのみならず、厳しい修行時代のご馳走を思
い出させてくれる、なつかしい食べ物なのです。

自分の好きな食べ物を考えて見ると、
実はそれに寄り添うように大切な思い出
があったりします。年月が過ぎるとそれ
だけ、なつかしい顔が浮かぶような食べ
物が増えていきます。近くのおばあさん
達で作るお料理がおいしいのは、そんな
長年の思い出がいっぱい詰まっているか
らなのかも！と思つ大般若会でした。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里2号のおばあちゃん お大根の柚子漬け

- ① 大根 10 キロに、塩 300g を入れ 20 キロの重しをして1週間漬ける。
- ② 1週間後に大根を全部あげて、砂糖 1 キロと柚子 3～4 個分の輪切りを大根の間に入れながら容器に詰め、最後に上からお酢 4 合と焼酎 1 合を全体にかける。
- ③ 20 日後くらいには、おいしいご飯のおともが出来上がり。

私は、カビを止めるために焼酎を一応入れるんやて。
出来上がったら冷蔵庫や寒い所に置いておけば、だーいぶ日持ちするよ。
割合を変えずにやれば、大根 1 キロからでもできるで、やってみやー。





～ うちの宗教って、どんなやつけ? ～

第二回：日本に初めて臨済宗が伝わった頃のこと

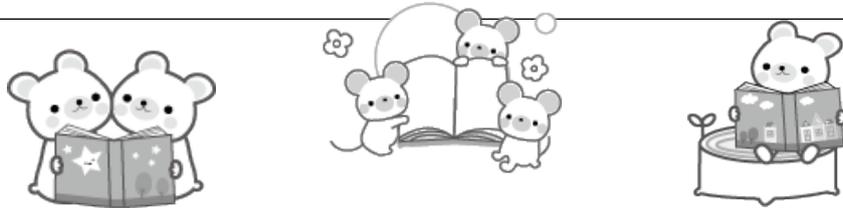
大智寺の宗門を、やさしく簡単におわかりいただければ嬉しい、そんなお話



宗祖 臨済義玄（りんざいぎげん）によって説かれた臨済宗は、10世紀には中国（南宋）にて大変繁栄し、広まっていました。

さて、その臨済宗が日本に伝わったのは平安時代末期。ちょうど貴族による政治が限界を迎え、武士の世の中へと移りゆく頃。日宋貿易を推進していた平清盛から「南宋へ留学せよ」との命を受け、海を渡ったのが栄西（えいさい・ようさい）禅師でした。

南宋にて臨済宗を学んだ栄西は、帰国すると精力的に布教活動を行い、日本最初の禅道場を建立したり、鎌倉幕府の加護のもと京都・建仁寺を開きました。また、文化面では茶の製法とともに、お抹茶を飲むという喫茶習慣を日本に伝えました。こうして初めて日本に「臨済宗」が伝わりました。



♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎
東日本大震災物故者追善供養
毎月 第四日曜日
定例写経会

今月の日程

2月24日（日） 一回 500円
（朝8時～9時） （内300円は義援金）
要申込

1月写経会 備忘録

なんと1月の写経会は、一面の雪でした。お写経が始まるのは朝8時なので、まだ雪も踏み乱されておらず、ささやかな銀世界(?)をご覧いただけたのではと思います。

新年初めての写経会は「道心」についてのお話でした。発し難きを発し、行じ難きを行ずれば・・・今年もよい年となりますように。

永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りの方がいなくても、永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓
1区画：38万円～
（墓石代金含む）

ご家庭のご事情により、また、その方のご希望により費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めてご説明いたしますので、ご予約の上、ご来山ください。